

## 子どもの日本語教育研究会 第3回ワークショップ開催にあたって

第3回ワークショップ実行委員会委員長

萩原孝恵（山梨県立大学）

子どもの日本語教育研究会・第3回ワークショップは、山梨（山梨県立大学）で開催することになりました。猛暑の折、山梨に足を運んでくださり、まずは心より感謝申し上げます。

今回のワークショップでは、「子どもの日本語教育研究会」のトップページに書かれている「集い・語り・学ぶ」をコンセプトに、様々な立場の皆様（日本語教育・学校教育・地域支援に携わる皆様）が集い、語り合うことで、それぞれがそれぞれの形で、何かを持ち帰れるような学びの機会となればと願っております。

ここで本日のワークショップについて紹介させていただきます。まず、地元山梨からの報告として、大学、子どもの学習支援団体、学校教育現場からの声をお届けします。そして学校教育現場からの声を、次の「キャリア支援と日本語教育—進路・進学指導及び受験学習と日本語支援—」と題したパネル・ディスカッションへ繋げます。お昼の時間にはランチセミナーを開催します。このランチセミナーでは、「実践を言語化し、実践から学ぶ—ジャーナルでの『実践』の伝え方—」について学ぶことができます。「実践はしているけれども、それをどう伝えたらよいのか」と悩んでいる方や考えている方など、お昼を食べながら気軽に参加することができますので、ぜひご活用ください。午後は、「外国人の子どもや保護者に『つたわる日本語』って？—理解を支える話し方・伝え方—」について、森篤嗣先生（京都外国語大学）と柳田直美先生（一橋大学）を講師にお迎えし、外国人の子どもたちや保護者に対して、どのようなことに配慮し、どのように話したり書いたりすれば、授業や文書、生活の中で「つたわる」のかを学びます。

なお、皆様には駅からここまでの道のりでご不便をおかけしたことを思います。地方ではよくあることですが、ここ山梨は自家用車がないと不便な土地柄です。都会とは違う地方ならではの悩みや問題なども含め、その支援の仕方についても「集い・語り・学ぶ」場となれば幸いです。

天気がよければ、会場の窓から富士山が見えます。ぜひご堪能くださいませ。

最後になりますが、今日のワークショップが、参加される皆様にとって有意義なものでありますよう、山梨のスタッフ一同、心より願っております。